

同志社よ、その名は一つの目的を意味する

ONE PURPOSE

【同志社人訪問】

読売巨人軍
代表取締役社長

くにまつ とおる

国松 徹さんに聞く

2024 Autumn | Vol.214

巻頭企画【リーダーに訊く】

日本証券業協会
会長

もりた としお

森田 敏夫さん

世界を読む。

A global perspective

Predicting World affairs



同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY

そして新たな物語。 学生街の記憶、

VISION 2025
DOSHISHA UNIVERSITY

同志社は2025年、創立150周年

#6 学生街 (今出川校地周辺) 150年の 歴史をたどる

History of DOSHISHA

「温故知新」。未来
への挑戦の指針

を学びとるべく、積み重ねてきた歴史をたどる。同志社は新島襄を中心に、幾多の困難を乗り越え、志を同じくする人々の祈りの中から誕生しました。「150年の歴史をたどる」第6回は、同志社大学キャンパス(今出川校地)の外で活気づく「学生街」を紹介します。

INDEX

- 02 150年の歴史をたどる #6 学生街(今出川校地周辺)
- 04 巻頭企画「リーダーに訊く」 日本証券業協会
会長 森田 敏夫さん
- 08 研究の最前線
法学部政治学科 村田 晃嗣教授
- 10 研究の最前線
グローバル・スタディーズ研究科 中西 久枝教授
- 12 今年度就職活動をした先輩からのメッセージ
- 13 来年度就職を目指す皆さんへ
- 14 Doshisha New Day
- 15 Instagram 及び Facebookページ開設! /
第2回 同志社京田辺アドベント礼拝
- 16 同志社校友会
- 17 クリスマス・イルミネーション点灯式 / 第149回 同志社EVE
- 18 ゼミで学ぶ 魅力を語る
- 20 2024年度卒業式・学位授与式(学部・大学院) /
2025年度入学式(学部・大学院) / 本学教員の執筆図書紹介
- 21 同志社人訪問 読売巨人軍 代表取締役社長 国松 徹さん
- 24 My Purpose 挑戦する人 稲田 莉子さん(神学部 神学科4年次生)



甲斐 扶佐義

Kai Fusagoshi

1949年、大分市生まれ。11歳で写真開始。
1968年同志社大学法学部政治学科入学。
1972年仲間と共に喫茶「ほんやら洞」開店。
1977年写真集「京都出町」出版。1978年米国
エバークグリーン州立大学で写真展。1985年
バー「八文字屋」開店。2009年京都美術文
化賞受賞、2014年バリ・ポザール展ジャン・ラ
ヴィエール賞受賞。2023年度京都府文化賞
功労賞受賞。主な写真集「ほんやら洞 70年代
京都」「Beautiful Women in Kyoto」「京都
ほんやら洞の猫」「バリちょっと見ただけ」等。

お知らせ

「ONE PURPOSE」は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションを図ることを
目的として発行しています。同志社大学の最新情報は随時ホームページでお知らせ
しております。ぜひご覧ください。 ▶ <https://www.doshisha.ac.jp/>

卒業生の住所変更、発送停止を希望される場合の連絡先は以下にお願いします。
校友課 TEL: 075-251-3009 MAIL: ji-koyu@mail.doshisha.ac.jp



出町橋南(1978年)

「出町界限は、戦後から高度経済成長期、同志社大学や京都大学から近いこともあり、学生のための食堂や喫茶店、書店、下宿屋などが軒を連ねるようになり、「学生街」と変貌してきます。「ほんやら洞」が開店したのは1972年。当時は、学生運動が盛んに行われており、学生たちは喫茶店や居酒屋といった「たまり場」で集会や議論を繰り広げていました。「ほんやら洞」には、詩人、シンガー、アーティスト、大学教員などがたむろしていたと甲斐さんは振り返ります。そのような「学生街」は、活気にあふれ、カウンターカルチャー的な若者文化の発信地でもありました。

キャンパス内には学生会館別館やラウンジなど、学生たちの居場所も確かにありました。

ゆったりとした川が流れ、周辺には昔ながらの商店街や純喫茶、古道具店などが点在する出町界限。そこには、同志社大学今出川キャンパスの外に広がる「学生街」が存在しています。「学生街」とは、単なる大学周辺の商業エリアにあらず。そこは、学生たちの青春の舞台であり、学びの場でもありました。その象徴的存在だった喫茶店「ほんやら洞」の元店主で写真家の甲斐扶佐義さんは、界限の変遷を知る人物です。

「出町界限は、歴史をさかのぼれば流民の里でした。そうした土地柄が関係しているのか、いつの時代もこの街はどこか、行き場を探している人が集まる雰囲気があるなあと感じていました」

足で、多くの学生が大学の外にも「たまり場」を求めていました。この現象は、甲斐さんの言う「流民の気質」のせいなのかかもしれません。大学という制度化された空間を超えて、より自由で開放的な場所を求める学生たちの姿勢は、出町界限の「学生街」の形成に大きく寄与したのでしょうか。ただ、時代が進むにつれてインフラが発展し、ライフスタイルも大きく変わり、1980年代以降、かつてのような集いの場は徐々に姿を消していき、「学生街」の趣は薄れていきます。

「60、70年代に学生だった人には、隔世の感がある出町界限ですが、それも今は変わりつつあるんですよ。若い連中が、思い思いの店を出そうという動きがあつてね。50年くらい前の状況が二回りしてやって来ている感じです。私もね、『ほんやら洞』のような、新たな集いの場を再び作ろうと考えているんですよ」

「学生街」は、時代とともにその形を変えながらも、本質的な魅力を失うことなく進化を続けています。この地に根付いた自由と創造の精神は、これからも新たな文化を生み出していくことでしょう。



出町櫛形商店街(1979年)

にありました。全国から集まった学生たちにとって、それは居心地の良い交流の場となっていたはず。しかし、それだけでは満



出町櫛形商店街(2004年)



「ほんやら洞」店内(1980年)



Predicting World affairs

A global perspective

を動かしているもの

戦争や貿易の分断など、世界情勢は緊迫した状態が続いています。

また今年にはアメリカ大統領選挙が行われ、これからの世界情勢が大きく変わる可能性も考えられます。

今号では「世界情勢を読み解く」をテーマに、金融業界のトップを走る卒業生や、アメリカ・中東の安全保障問題を研究する本学教員への取材を通じて世界の今を考察し、これから必要となる考え方や同志社大学で学ぶことの強みなどを考えていきます。

民主主義、資本主義をアップデートし、
混沌とした世界に新しい秩序を

「貯蓄から投資へ」――。新NISA（少額投資非課税制度）のスタートなどを背景に、国民の投資への関心はかつてなく高まっている。一方で、国際情勢に対する不透明感などから株価は不安定な動きも見せる。金融資本市場の公正・円滑な運営、健全な発展が今、ますます重要性を増している。

リーダー不在、過渡期を迎える
国際社会

2024年は日本の金融資本市場にとって歴史的な年となるだろう。新NISAのスタートで幕を開け、株価は上昇基調に。日経平均は7月11日には史上最高値の4万2224円をつけた。ところが、8月5日の日経平均終値は前週末比で4451円と大きく下落。ブラックマンデー翌日（1987年10月20日）の3836円を超え、歴代1位の下落幅を記録した。ジェットコースターのような展開の背景には何があるのだろうか。

「世界が過渡期を迎え、新しい方向性を模索しています。そうした時期は、どうしても混沌とした状況に見えてしまします」と森田さんは語る。

「財、サービス、資本はグローバルに行き来する一方で、政治的な選択は国境の中で行われます。この2つの原理は矛盾しています。ただ、今までは米国というリーダーが存在し、様々な国際機関（国際連合等）も調整役として機能していました。その米国が内向きになり、リーダーといえる存在ではなくなり、国際機関の調整機能も低下しています」



いま、世界



日本証券業協会 会長

もりた としお

森田 敏夫さん

鳥取県出身。1985年、同志社大学商学部卒業後、野村證券入社。東京・池袋、岡山、福岡の各支店長などを経て、2008年、同社執行役員に昇格。10年、常務、12年、専務、16年、副社長、17年、社長。21年7月より現職。鳥取県立米子東高校時代は野球部に所属。主将として臨んだ3年生の夏には、鳥取県大会で決勝まで駒を進めるも1対2で敗れ、あと一歩のところであまり甲子園への切符をつかむことはできなかった。

しかし、国を超えて解決していかなければならない問題は数多く横たわっている。ロシアによるウクライナ侵略、中東紛争など地政学リスクや気候変動への対応、急速に進化するAIなどテクノロジーを社会の中でどう位置づけ、活用していくかなど、数えればきりががない。

「民主主義、資本主義という重要な制度をアップデートしなければいけない。そこが今、問われていると思います。そのうえで、国を超えた問題を解決していくための、超国家的な枠組みを作っていくことも重要です」と森田さんは強調する。

「課題先進国」日本、調整役で存在感示せ

日本は何ができるのか。「第2次世界大戦の敗戦国であり、軍隊を持っていない。資源もない。だからこそ、グローバルリーダー不在の中で、調整役として日本の立ち位置は決して悪くない」と森田さんは考えている。

「また、『課題先進国』として、少子高齢化やデフレなど、実に様々な課題に向き合ってきました。そして今、前向きな変化が始めてきたと思います」

デフレからの出口も見え始めてきた。企業もガバナンス改革等により体質強化が図られつつある。

そして、もう一つの前向きな変化が「貯蓄から投資へ」の動きだ。現在、日本の個人金融資産は2200兆円前後だといわれている。だが、2000年からこの間、米国では個人金融資産が3・4倍に伸びたのに対し、日本では1・5倍にとどまっている。「これは、まさしく運用パフォーマンスの差です。米国で



は50%以上が投資に向かっているのに対し、日本では預金として眠っていたのです」と森田さんは指摘する。

「投資するということは、有権者が選挙で『1票』を行使するようなものです。『1票』が投じられた企業は、それを元手に成長し、成長の果実を皆さんにお返しする。こうした好循環をつくっていくことが重要です」

森田さんは今、日本証券業協会会長として、「貯蓄から投資へ」の動きを加速させ、日本経済に好循環を生み出そうと、業界の先頭に立っている。

人との出会い、苦い失敗が人を成長させる

森田さんは1985年、同志社大学商学部を卒業し、野村證券に入社。広島支店を振り出しに、営業畑を中

心に歩み、2017〜21年には社長を務めた。自らを成長させてくれたものとして、「二つは、『あの人、先輩がいたから今の自分がある』と思える人との出会い。もう一つは、失敗や難しい局面を乗り越えた経験」だという。

森田さんを成長させた「失敗」の一つが新人時代の経験だ。入社したその年、自ら開拓した中小企業の社長に国債の先物を購入してもらった。金利の低下傾向が続いており、「今は買値」という判断だった。ところが、直後に先進5か国蔵相・中央銀行総裁会議で、有名な「ブラザ合意」が成立。円高・ドル安に誘導するため、金利は上昇基調に転じ、国債価格は一転して大幅下落となった。

社長は激怒し、奥さんには泣かれた。「申し訳ない」という思いとともに、三つのことを考えたという。

「二つはこのビジネスの怖さ、もう一つは先輩に言われて、自分も納得して売ったつもりだったけれど、自分自身本当に勉強して信念を持って、お客さんに説明できたかどうかということです。そして、三つ目に浮かんだのは、『このお客さんは、このままだと二度と証券投資はしないだろう。ただ、もう一度やつてもらえたら、それができるのは自分じゃない』という思いだった。

「そこから真剣に勉強しました。自分なりに確信を持って、再びお客さんに国債の先物を勧めました。最初はすごく怒られました。それでも何度か説明に足を運ぶうちに、購入していただくことができ、最初に出した損失を、ある程度取り返すことができました」





「最も会いに行きづらい人のところに足を運び、結果を出すことが出来た。森田さんにとって、この経験は『営業の原点』だという。」

組合委員長として経営陣と対峙。 徹底した議論で営業改革も

その後、30代の時には組合委員長として、当時刑事事件に発展した総会屋問題について、社員やその家族の気持ちを会社側にぶつけるとともに、経営責任の明確化を求めた。営業担当の専務時代には、営業スタイルをブローカレッジ（委託売買業務）中心から、顧客のニーズにあわせて資産管理を提案するコンサルティング型に切り替える、大転換を主導した。

「支店長や部長を集めて説明しましたが、これまでのやり方で成功体験を持っているので、当然納得しません。そこで、全員に疑問点を書き出させて、一つひとつ全員が納得するまで、質疑応答を続けました」

議論は約5時間を要した。一応の納得が得られたと確信すると、森田さんは訴えた。

「今度は君たちが、支店や部の中で同じことをやって、みんなに納得してもらってくれ」

同志社には人を
引きつける「磁力」がある

顧客、上司、同僚、部下——様々な人と正面から向き合い、ビジネスを前に進めて

国を超える課題に 新しい枠組みを

きた森田さん。その原型を育んだのは同志社大学での4年間だった。

「正直、人様に自慢できるような学生生活は送っていないのですが、多くの人に出会うことはできました。同志社には、全国からいろいろな人を引きつける『磁力』があると思います」

「私は4年間、『葵寮』という、同志社の学生だけが住んでいるアパートで過ごしました。そのメンバーやその友達と年齢や大学を超えて仲良く過ごしました。みんな考え方も様々で大きな影響を受けたと思います。2年前に当時の住人が集まったのですが、会ったとたんその当時の気持ちに返ることができました。私の原点になっています」

価値観をぶつけ合い、 無から有を生み出す人材を

森田さんは同志社大学に「無から有を生み出す人材を育ててほしい」と期待する。

「人口減社会の中で経済生産性を上げていくためにはイノベーションを起こしていくしかありません。その主役となるのは若者です。京都にはグローバル企業や有望なベンチャー企業がたくさんあります。スタンフォード大学とシリコンバレーの関係のように、京都の持つ『磁力』を活かして、大学と企業が交わり、様々な価値観をぶつけ合うような場をつくってほしい」

そして、学生にエールを送る。

「世界は大きな転換点にきています。複雑な状況を乗り越えて、世の中を変革していくのは若い人のエネルギーだと思っています。我々も頑張つて、若い人たちが力を発揮できる土壌をつくっていききたいと思います」





研究の Forefront of research 最前線

転換期の国際社会の中で 自ら考え行動する人間であれ

法学部 政治学科 村田 晃嗣 教授

1987年、同志社大学法学部卒。95年、神戸大学大学院法学研究科博士課程修了。ジョージ・ワシントン大学留学、広島大学総合科学部助教授、同志社大学法学部助教授などを経て2005年より現職。13～16年、同志社大学学長。米外交史や安全保障政策を中心に研究し、国際会議への出席、総合雑誌・新聞への寄稿など精力的に活動。『大統領の挫折——カーター政権の在韓米軍撤退政策』（アメリカ学会清水博賞、サントリー学芸賞受賞）、『戦後日本外交史』（共著、吉田茂賞受賞）など著書多数。

国際政治は大きな変化の 転換期にある

ウクライナや中東で戦争が続き、米中対立も重なって世界の貿易が分断されている。不穏で不透明な世界を村田晃嗣教授はどのように見ているのだろうか。

「前提としてアメリカの国力低下と内向き傾向があり、そういう状況の中で様々な国やプレーヤーが既存の秩序にチャレンジしようとしている転換期なのだと思います。昨年、インドは人口で中国を抜き、また早晩、GDPで日本を抜きます。いろいろな意味で20世紀から続いた大国間の力関係が大きく変わりつつあるのが、今の国際情勢ではないでしょうか」

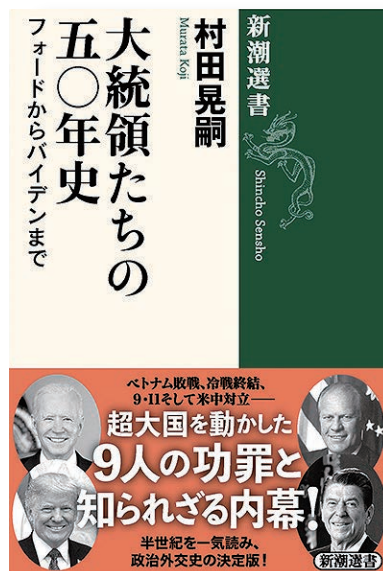
話をうかがったのは9月初旬。11月のアメリカ大統領選で勝つのは共和党のドナルド・トランプ候補か民主党のカマラ・ハリス候補か、大勢はまだ明らかではなかった。ただ、どちらが勝つにせよ、米中対立は続くと言った村田教授は見る。

「人口減少が進んでいるとはいえ中国は14億の人口を抱え、世界第2位の経済大国です。旧ソ連のGDPがピークだった1975年でさえ、そのGDPはアメリカの57%でした。しかし、今の中国のGDPはアメリカの7割程度。経済的理由や国内政治的理由によって、中国に対して厳しく臨むことは変わらないと思います」。人道危機を含めた国際的課題に国連が期待される役割を果たせずにいる現状では、内向きになっているとはいえ、依然としてアメリカの動向が国際社会に与える影響は小さくない。現在進行形のアメリカ外交史を研究する国際政治学者として、新たな大統領が誰になるのか、どのような政権をつくるのかに注目している。

日本の立ち位置をどう考えるか

流動する国際社会の中で、日本はどう振る舞えばいいのだろうか。村田教授は、国際政治は力(軍事)、利益(経済)、価値という三つの体系から考えなければいけないと強調する。「戦前の日本は経済力と不釣り合いに軍事大国になり、軍事に滅びました。戦後は軍事を極小化しながら経済力だけが肥大化して世界第2位の経済大国になったものの、バブルがはじけて力を落としつつあります。大事なのは、軍事、経済、価値をバランスよく発展させることです」。その上で、戦後は武力ではなく話し合いで国際問題の解決に努め、発展途上国などにキメの細かい経

今年9月下旬に刊行されたばかりの著書『大統領たちの五〇年史—フオードからバイデンまで—』(新潮選書)



済援助をしてきた日本外交に一定の評価を示す。「アメリカと付き合っていないながら、時にアメリカより国際協調を大事にしようとする日本の姿勢は、多くの日本人が思っているより国際的に信頼されています。ただ、それについて我々はあまり自覚していません。積み重ねてきた『徳』を他国と協力しながらさらに発展させていくためにも、自分たちの価値観を相手に伝え、共有するための言語化が求められているように思います」

超大国にはなれないが、小国にもなれない日本だからこそ、国際社会で果たせる役割があるのかもしれない。

「日米関係を基軸にしつつ、それを補完するような関係をどれだけ持てるか。国際交流の担い手になるのは必ずしも国だけではありません。自治体、大学、企業、個人。どれだけ重層的な関係を持てるか、一人ひとりの自覚的な振る舞いが大事なのです」

同志社大学で学ぶことの強み

国際社会の中での振る舞いを考えるに当たっては、今の基準だけではなく、短期、中期、長期ではどうだろうかと時間軸によつてものを考えること、また、立場を変えて考えてみるトレーニングが必要だと村田教授は話す。そのためにはも学生には、自分とは異なる意見に接する機会をできるだけ多く持つてほしいと期待を寄せる。求めれば、それが得られる環境が同志社大学にはあるからだ。さらに、「京都にある同志社大学で学ぶ」ことの意義についても、自覚的でないといけない。

「若い人たちには京都の味わい深さは理解するのに少

し時間がかかるかもしれませんが、京都について知っているというのは、そのこと自体がソフトパワーなんです。また、キリスト教について学び、イスラム教との共通点や違い、一神教と多神教についてなどを語ることができるといえるのは、非常に大きな付加価値です。パレスチナ問題などの国際政治だけでなく、AI、医療、経済とも宗教は関連し得ます。様々な切り口があるのに、何も知らずに卒業していくのは大変もったいない。学生たちにはもっと貪欲に、同時に寛容の精神を持って、世界に触れてほしいと願っている。





研究の Forefront of research 最前線

違いを認め合う体験と意志が 国際理解を進める第一歩

なかにし ひさえ
グローバル・スタディーズ研究科 中西 久枝 教授

米カリフォルニア大学ロサンゼルス校で歴史学博士(Ph.D. in History)を取得。名古屋大学大学院国際開発研究科助教授、教授を経て、2010年4月より現職。専門はイランを中心とする中東の安全保障問題、イスラーム社会におけるジェンダー、国際協力論。イランの核開発問題と経済制裁、イスラームとジェンダー、中東ユーラシアにおけるハイブリッド戦争、ユーラシアの国際的な輸送回廊と中東、中央アジア、コーカサス地域の連結性などについて現地調査を行っている。中学時代は陸上の選手として活躍し、今でも1日おきに1時間ほどジョギングをする。

ガザ戦争における国際的課題とは

パレスチナのガザでイスラエルとイスラーム主義組織ハマスとの戦闘が始まって以来、イランとイスラエルの間でも緊張が続く。今年4月には在シリアのイラン大使館領事部への空爆の報復として、イランがミサイルやドローン(無人機)を使ってイスラエルを攻撃、そしてイスラエルも反撃した。1979年のイラン革命以降、45年にわたりイスラエルと敵対してきたイランが、親イラン勢力を介さず直接攻撃したのは初めてのことだった。中西久枝教授は、戦闘拡大の要因はイラン・イスラエルという2国間、あるいは中東地域だけに求められるものではないという。

「イランが核開発縮小に応じる見返りに欧米が経済制裁を解除するという『核合意』には、核だけではなくミサイル開発を抑止するという目的がありました。しかしアメリカのトランプ政権が一方的に核合意から離脱したことで、イランも核開発、ミサイル及びドローンの開発能力を向上させ、それが今日、直接軍事行動の際、威力を発揮しているのです」

AI(人工知能)やICT(情報通信技術)の発展により、ドローンを超えた自律型致死兵器システムの開発が進む現状を危惧している。「国際的な規範が整備されないうちに、人間の判断によらない自律型致死兵器システムが現実に使われています。また物理的攻撃に至らずとも、サイバー攻撃を仕掛けてくるハッカー対策として相手のシステムに侵入するハッカーたちを国家が採用する政策についても、国際法上の規制が整備されていません。今日、まさに国際法上の規制を、価値基準や倫理観にまで踏み込んで再構築していく過程にあると考えています」



イランのシンクタンクでの交流会に参加して

イランの抗議デモから見えるもの

中東問題について考えるとき、私たちはとかく見方が一辺倒、あるいは「欧米寄り」になっていないだろうか、問い続ける必要がある、と中西教授は語る。例として挙げたのは、イランで2022年9月、髪を隠すスカーフ（ヘジャブ）の被り方が不適切だとして警察に連行された女性之急死した事件を巡って起きた、市民の抗議運動だ。

「イランは25歳以下の人びとが人口の60%を占める若い国です。その中でいわゆる『Z世代』の女性たちが、ヘジャブを被らないという形で国家からの押し付けに抵抗しています。一方で、文化的な価値としてヘジャブを被る選択をしながらZ世代を支持する女性もいます。つまり自己選択ができる時代に、それをさせない政府に対する怒りが抗議運動の根底にあり、また運動を支える男性た

ちには、政府のとする政策のせいで経済制裁が続き、自分たちの生活が脅かされているという不満があるのです。女性たちが主導した抗議活動を欧米や日本はイランのフェミニズムと呼びますが、女性の権利のみが問題にはなっていない。究極的には反政府運動であり、その発端は経済制裁にある。また、イランのソーシャル・メディアの発信内容や手法を外部勢力が操り、政府の秘密情報をリークした、つまりハッカー集団の関与が、抗議活動の拡大に寄与した事実もある。でも、こうした点は残念ながら欧米でも日本でもあまり報道されていません」

新しい科学技術がどのように社会を変えているのかを正しく見極めるために、「安全保障」、「人びとの経験や属性の交差性（インターセクショナリティ）」、「市民社会運動」など個別に論じられている研究をどう総合しうるのか、という視点で研究に取り組みたいと中西教授は意欲を示す。

自分の価値観を見つめ直す経験を

歴史や価値観が絡み合う複雑な国際情勢下で、粘り強く平和への道筋を模索し続けることが重要だ。中西教授は次代を担う若者たちに期待を寄せ、教育者の役割は大きいという。その点、常時約20か国からの留学生が学ぶグローバル・スタディーズ研究科は、留学生、日本人学生にとっても、そして自身にとっても、恵まれた環境だという。

「私のゼミでも学生の出身はラテンアメリカや中東、中欧、東南アジアなどと多彩です。学生たちには常に原典に当たってもらうように伝えており、授業ではみんなで討論できる場を設けています。価値観の違いから時にはけんかのよう



な状態になりますが、自分が正しいと思っていることが別の国の人からは全く受け入れられなかったり、見直しを求められたりするような経験を、直接の触れ合いからしてほしい。違いを認識することが、自分の殻を打ち破る一つのきっかけになると思うからです」

グローバル社会に出ていく学生たちが一つでも多くの「ものさし」を持てるように。それが共生の精神へとつながり、国際社会の平和と安定に、少しでも近づく一助になればと願う。

「今、恵まれた環境に暮らす私たちも、いつ災害に遭って被災者になるか、いつ難民になるかわからない。そんな危うさが21世紀にはあると思っています。不確かな中で生きていくからこそ、国や文化が異なる人に対して、我が身に置き換えて考える目線が必要だと思っています」

（2024年9月9日）



\\ 今年度就職活動をした先輩からのメッセージ //

(「2024年度 就職活動に関するアンケート」から)

文学部

自己分析を徹底しましょう。自己分析のクオリティがESの完成度、面接の通過率、業界・職種の納得のいく絞り込み、そして就活の満足度に直結すると思います。何から手をつけてよいのか分からない場合は、まずWebテストの勉強から始めることをおすすめします。2週間程度で対策が可能です。早めに取り組んでおいたおかげで、インターンやその後の選考が非常に楽でした。就活をはじめて右も左も分からないうちからでも、Webテスト対策なら即動くことが出来ます(勉強するだけなので)。

文学部

就活の時期によってそれぞれするべきことが違うので、それをしっかりと明確にして取り組むこと。自己分析とテストの勉強は早めに始めておくのがよい。

文学部

インターンシップに参加して、企業に興味があることを伝え、日頃のイベントや座談会などに繰り返し参加し、礼儀正しく、質問をし、企業についてもっと知りたいという姿勢を見せることが大事だと考えます。

法学部

就職活動が長期化し、辛い時間が長くなる人もいますが、日々自分への理解を深めながら頑張ってください。

経済学部

自分が就職したい企業があるなら絶対にOB・OG訪問はすべきです。同志社の卒業生には各方面で活躍されているOB・OGがたくさんいらっしゃいます。恥ずかしいかもしれませんが、ぜひ一度キャリアセンターへ足を運び、OB・OG訪問をしてみてください。

経済学部

あまり周りや比べずに自分のペースでやるべきことをやっていると、自分の望む結果は得られるはずです。頑張ってください。

商学部

初めての就活は、わからないことがたくさんありますが、私たちが実際にそのような不安をたくさん経験しました。憧れの企業に入社したいと考える気持ちもわかりますが、自身が入社して一番自分らしくいられるところを志望企業の一つにしてみてください。自己分析を行い、自分らしくいられるところが見つかったのであれば、そのまま自分自身の想いを企業にぶつけてください。必ず、みてる企業はあると信じています。

商学部

何をしたらいいかわからない、行きたい企業が見つからない人こそ早く就活を始めるべきです。自己分析をしたり合同説明会やセミナーに参加したりすることで見てくるものがあります。行動を起こさなければ何も変わりませんので、とにかくとにかくアクションを起こしましょう。そして、たまには息抜きもしましょう。

商学部

就職活動はとにかく行動することと情報収集することが大切だと思います。大学3年生の1年間は心の片隅に常に就職活動のことを置きながら、がむしゃらに努力すれば、自分の目指すキャリアの実現ができると思います。

政策学部

まず最初は業種を絞らずに広く見るのが大切だと思います。一度話を聞いたり、体験したりしてから、向き不向きや興味のあるないを判断することが大切です。

文化情報学部

面接では、「話す」というより、感情をのせて相手に「伝える」ことを意識すれば、より熱意が感じられ好印象だと思います。

社会学部

とにかく参加してみよう!の精神が結果につながると思います。インターンシップでも選考でも楽しむことを忘れずに、自信を持って頑張ってください。

社会学部

私は、志望業界や職種をぎりぎりまで絞らずに就職活動をしていましたが、選考を受けていく過程で自然と狭まっていきました。そのため、やりたいことが明確でない人は幅広く企業を見たほうが良いと思います。

スポーツ健康科学部

焦らず自分のやりたいことを探していけばいいと思います。

心理学部

私はたくさんさんのインターンシップに参加して、本当によかったと心から思っています。インターンシップに参加したこと・応募したことにより本選考前に何度も面接の練習ができた、社員の方と自然にお話することができるようになったり、さらには業界・職種への理解度を深めたりすることができました。またインターンシップによりたくさんさんの就活仲間にも出会えてとても貴重で楽しい時間でした。もちろんインターンシップが全てではありませんが、私はとても大きな財産になったと感じております。あまり考え込みすぎず、しかしその中でも後悔のない就職活動を行ってほしいです。

グローバル地域文化学部

OB・OG訪問はした方がよい。何を質問していいかわからなければネットに載っているのを参考にすべき。遅くとも秋冬インターンは参加した方がよい。ESや面接の練習にもなる。

生命医科学研究科

就活はなにからはじめたらいいのかわからないと思いますが、まずは企業のホームページを見て、どんな企業があるのかわかることから始めてください。そこから興味が湧いて、自己分析、企業研究へと繋がっていくはず。そしてなるべく早めに動き出して、説明会、インターンにたくさん参加してください。早期選考の案内など思わぬチャンスが巡ってくるかもしれません。頑張ってください!!

開催する 主な支援プログラム

こちらに掲載していないプログラムもあります。詳細は、キャリアセンターホームページ、キャリア支援システム「e-career」、キャリアセンター掲示板を随時確認してください。

プログラム名	開催時期
就職ガイダンス	9月、11月、12月
エントリーシートワークショップ	2024年10月～2025年7月(毎月複数回開催)
面接ワークショップ	2024年10月～2025年7月(毎月複数回開催)
グループディスカッションワークショップ	2024年9月～2025年7月(毎月複数回開催)
企業セミナー／学内企業説明会	2024年9月24日～27日 2024年10月26日 2025年2月12日～21日
内定者座談会	10月～12月
公務員・公立学校教員業務説明会	11月

キャリアセンター
ホームページ



[e-career]



過去に開催したセミナー・
ガイダンスの動画配信画面

※動画配信を行っていないセミナーもあります。



個別相談について(対面・Web・電話)

キャリアセンターでは、経験豊かなキャリアアドバイザーやキャリアセンタースタッフが、進路や就職活動に関する悩みや疑問等の相談に対応します。相談方法は、対面・Web・電話から選択できます。相談を希望の場合は、[e-career]から予約してください。

【来年度就職を目指す皆さんへ】

納得のいく就職に向けて

来年度の就職を目指す皆さんが気になるのは、コロナ禍を経た就職環境の変化、昨今のインフレ、円安等が自分たちの就職活動にどう影響するのかだと思います。この点については、悲観しすぎる必要はありません。日本国内では労働人口が減少し続けていることから、採用に熱心な企業が多くあります。また、コロナ禍を契機として、急速なDX化の推進、円安やインバウンドによる景気回復で、労働市場は一転、売り手市場に転換しました。

コロナ禍を経て就職環境も大きく変化し、早期化、長期化、多極化しています。大切なことは、「早めの準備と幅広い視点を持つ」「あきらめず粘り強く取り組む」「自分で考えて決める」の3点です。

キャリアセンターでは、様々な就職支援プログラムや個別相談で皆さんの就職活動をサポートしていきます。就職活動は情報戦です。キャリアセンターを積極的に活用しましょう。

就職を取り巻く状況と キャリアセンターの支援について

ここからは、本学の現4年次生・大学院2年次生の就職活動の状況と、キャリアセンターが実施する現3年次生・大学院1年次生向けの就職活動支援について説明します。

現4年次生・ 大学院2年次生の状況について

現4年次生・大学院2年次生である2025年4月採用の就職活動は、前年と同様に、企業の採用活動のうち、広報活動が「3年次生の3月」から、選考活動が「4年次生の6月」から開始のスケジュールとなりましたが、この日程によらない企業も多数あり、採用活動は全体としてますます早期化しています。コロナ禍を経て、オンラインでの採用選考・説明会が定着する一方、対面での実施も増加しており、オンラインスキルと共に対人スキルも磨いておく必要があります。

キャリアセンターでも、このような就職活動の動きに対応するため、昨年3月、キャリアガイダンスを皮切りに、新規を含む様々な支援プログラムを開催しました。就職ガイダンスや企業セミナー、個別相談等はオンラインでも行い、実家や遠方にいる学生も参加できました。

また、業界・企業理解を深めるために、今年2月に、約300社が参加する対面・オンラインの学内企業説明会を開催し、説明会の内容はオンデマンドでも配信しました。OB・OGに参加いただいた企業も約120社あり、後輩へのアドバイス等をいただきました。

就職活動中の学生を支援するため、今年5月下

旬以降、必ず選考に参加できる企業採用選考会をオンラインで定期的開催し、採用継続中の企業の求人情報を積極的に提供する等の支援を行っています。

現3年次生・大学院1年次生 向けの就職支援について

就職活動の早期化・長期化、採用に直結したインターンシップが増えている現状に対応するため、新3年次生対象のガイダンスを3月中下旬に実施しました。学業の優先を前提としつつ、就職活動への早期からの準備を促し、インターンシップ参加に向けてのエントリーシート・面接対策等のセミナーを実施、学生の積極的な挑戦を後押ししました。

また、学生の活動開始時期が多様化していることから、1年間で3つの時期に分け、各時期に、ガイダンス、セミナー、ワークショップ等を開催、学生が就職活動をいつから始めても対応できるように、必要な知識やスキルが身に付く体系的なパッケージを用意しています。プログラムの多くをオンラインで開催し、キャリアセンターホームページ上でオンデマンド配信も行っているため、いつでも視聴できるようになっています。

就職を取り巻く環境が変化していますが、就職環境の良し悪しにかかわらず、皆さんが企業にアピールすべきことは、主に、根拠に裏付けされた皆さんの強みと企業への熱意の2点です。また、皆さんが知っている大手企業や有名企業の多くは、就職環境に関係なく、常に「厳選採用」であることを覚えておいてください。大手企業や有名企業には、全国から何千、何万人もの学生からのエントリーがありますので、全員が面接選考までたどり着くことはできません。まずは、エントリーシートで自身をアピールすることが重要です。キャリアセンターで実施するエントリーシートセミナーに参加し、自分らしいエントリーシートの書き方を身に付けてください。

企業理解を深める企業セミナーを今年度は9月から開催しており、9月、10月には合計約150社、来年2月には約300社の企業を招聘する予定です。昨年は対面・オンラインでの開催でしたが、今年からは対面のみでの開催予定です。学外で開催される合同説明会と異なり、学内企業説明会は、同志社大学生だけのために多くの企業が参加いただける点が大きな魅力です。現時点で興味がある業界・企業だけではなく、幅広い業界を見て比較し、職業選択の幅をできるだけ広げてください。

特に、皆さんが知っている企業は、一般消費者向けのビジネスを展開するBtoCの企業が多いですが、日本には、企業向けのビジネスを展開するBtoBの企業が数多くあります。知らない企業でも、ぜひ積極的に情報収集をしてください。

キャリアセンターでは、皆さんからの個別の相談にも対応しています。相談という身構えてしまうかもしれませんが、就職活動について話を聞いてほしい、考えを整理したいので誰かと話したいといった際にも気軽に利用してください。多くの先輩

たちも、就職活動の進め方や、エントリーシートの書き方等、様々な相談をしています。

就職活動では、一見すると明確な数値や基準のない中で採用・不採用が決まります。自信をもって提出したエントリーシートや履歴書が通過しない時や、手ごたえがあった面接が不合格だった時は、自分自身を否定されたような気持ちになるかもしれません。落ち込んだ時は、一人で悩まずにキャリアセンターを大いに頼ってください。

企業の求める人材

経団連が実施したアンケート（「採用と大学改革への期待に関するアンケート結果」2022年1月18日）によると、企業が新卒採用時に期待する資質の1位は、「主体性」です。2位以下には、「チームワーク・リーダーシップ・協調性」、「実行力」が続きます。企業が新卒の学生に求める力は、「自ら主体的に行動し、周囲を巻き込みながら、実行する力」と集約できるでしょう。

オンラインによるコミュニケーションは、直接対面で話すのとは異なる難しさがあります。これまで以上に相手の意見を傾聴し、そのうえで自分の意見を伝えることが重要です。オンライン面接では、通信が途中で途切れてしまう、音声聞きづらい、カメラが機能しない等、様々な問題が起こり、面接の緊張感が加わって、パニックになった学生もいました。トラブルを未然に防ぎ、万が一トラブルが起こった時にも落ち着いて対応できるよう、事前にPC操作に習熟しておく等の準備をしておいてください。

また、リモートワークが増えたことで、職場で仕事をしている時よりも仕事の全体像が見えにくい状態にあります。指示を待つだけの受動的な姿勢では、業務に支障が生じることがあります。これからの社会人は、これまで以上に主体的に課題を発見して、対策を考え、解決に向け挑戦し、業務を遂行する力が求められます。

最後に

採用選考の過程では、学生時代に力を注いだエピソードを通じて、皆さんがどのような状況でどのように考え、どのように行動したのかが問われます。

大切なのは、何らかの目標を達成したという結果ではありません。目標を達成するまでにどのような努力をしたのかというプロセスを具体的かつ明確に伝えることが重要です。プロセスの中に、皆さんの強み、人間性、価値観、能力等が表れるからです。

「早めの準備と幅広い視点を持つ」「あきらめず粘り強く取り組む」「自分で考えて決める」の3点を意識しながら、自分を信じて前向きに就職活動に取り組んでください。

Doshisha New Day

— 同志社の未来をつくるための特別な1日。 —

2024.11.29(金) 15:00～17:10 (受付開始 14:30～)

場所：同志社大学今出川校地 寒梅館ハーディーホール

スペシャルゲストとして、

株式会社マクアケ 共同創業者 / 取締役の **坊垣 佳奈氏**にお越しいたします！

貴重なお話を伺います。たくさんのお申込みをお待ちしております♪



INFORMATION

2

2024 November

参加費無料

※YouTubeライブ配信もございます

> Program

進行の関係で時間が前後することがあります。

15:00 開始

15:02 祈祷 同志社大学神学部准教授 木谷 佳楠

15:04 挨拶 同志社総長・理事長 八田 英二

15:07 講演

「多様性」と「個」の時代に、アトラシイ感覚で、人生を豊かに生きる
～Makuakeの最新事例とそのヒットの秘密をご紹介します～

坊垣 佳奈氏 (株式会社マクアケ共同創業者/取締役/
2006年同志社大学文学部卒業)

16:10 大学生によるパフォーマンス

- 同志社大学能楽部観世会
- 同志社女子大学京炎そでふれ「花風姿」

16:40 今年度実施した記念事業の紹介

- 新島襄のラットランド・アピール150周年記念ツアー
- 全同志社会唱祭
- 匂い香作り教室 (学生アイデアコンテスト最優秀賞)

16:55 2025年度に予定している事業の紹介

- 能楽「庭上梅」(2025年4月19日、栄光館)
- 創立150周年記念講演会
(2025年6月14日函館、6月15日札幌、11月22日横浜、1月30日熊本)
- 新島襄の足跡を辿るアメリカツアー (2025年8月22日～27日)
- 同志社創立150周年記念式 (2025年11月29日、国立京都国際会館)
- 新島襄に関するアニメーション制作 (上記、記念式でお披露目)

17:05 カレッジソング

17:10 閉会

> Special Guest

ぼうがき かな
坊垣 佳奈氏

株式会社マクアケ
共同創業者 / 取締役



同志社大学卒業後、2006年に株式会社サイバーエージェントに入社。株式会社サイバー・パズルの他ゲーム子会社 2社を経て、2013年株式会社マクアケの立ち上げに共同創業者・取締役として参画。

アトラシイものや体験の応援購入サービス「Makuake」の事業拡大に従事しながらも、全国各地での講演や金融機関・自治体との連携などを通じた地方創生にも尽力。女性社員が多いマクアケでは、多様なライフスタイルを望む若い世代の活躍推進を意識した組織運営を行う。

また、ENECHANGE 株式会社の社外取締役も務めており、XTalent 株式会社の外部アドバイザーにも就任している。教育分野では iU (情報経営イノベーション専門職大学) の客員教授なども歴任しており、ACCやTBDAなどのクリエイティブ・デザイン・PRやブランディング関連賞の審査員なども務めている。

2021年4月、著書『Makuake式「売れる」の新法則』を出版。

キャラクター：
新島襄

キャラクター：
新島八重

新島襄 アニメ
「二百年の夢を見た。」

*アニメは2025年
11月29日の同志社創立
150周年記念式後に
初上映します。



ライブ
配信

ライブ配信は、公式YouTubeチャンネルで行います。
オンライン参加でお申込みの方は、チャンネル登録を
してお待ちください。

同志社創立150周年記念事業 公式YouTubeチャンネル
<https://www.youtube.com/@doshishasouritsu150>

参加
申込みは
こちらから

申込期限：11月15日(金)まで

※オンライン参加(ライブ配信視聴)の
場合もお申込みください。
※お席に限りがございますのでご希望の
方はお早めにお申込みください。



Doshisha University Now!



Instagram 及び
Facebook ページ開設!

「Doshisha University Now! 同志社大学長の活動日誌」のInstagram及びFacebookページが開設されました。フォローして最新の情報を受け取りましょう!

Instagram



Facebook



「同志社京田辺アドベント礼拝」は、これまで31回にわたり実施されてきました「同志社京田辺クリスマス燭火賛美礼拝」に代わり、2023年度より実施されています。

京田辺キャンパスの同志社京田辺会堂 言館(KOTOBA-KAN)礼拝堂で、法人内小・中・高校と大学で創り上げるクリスマスを待ち望むアドベントの礼拝です。牧師からのメッセージやバイオリンアンサンブル、聖歌隊の歌声、ハンドベルの音色と共に、一緒にクリスマスの準備をいたしましょう。

※一般の方もご参加できます。なお、構内には駐車場はありませんので、公共交通機関でお越しください。



第2回 同志社京田辺
アドベント礼拝

詳細は
こちらから



日 時

2024年12月12日(木) 16:40~18:00 (開場16:20予定)

会 場

京田辺校地 同志社京田辺会堂 言館(KOTOBA-KAN) 礼拝堂

同志社校友会

Doshisha Alumni Association



INFORMATION

3

2024 November

同志社校友会は、同志社設立10年後の1885年に「アルムニ会」として発足したのが、始まりです。主な目的は、卒業生の親睦と大学との連携を通じた学生の支援です。現在、約37万人の会員となり、国内はもとより、各国に支部があります。

同志社校友会 会長 松岡 敬



TOPIC

2020年春からコロナ禍で、経済的に困窮している学生支援のため、同志社大学と連携して2020年5月から6月にかけて商店街やスーパーで利用できる食生活応援クーポンを配布し一人暮らしの食生活サポートを行うことができました。

その後も、コロナ禍において「同志社校友会ランチプロジェクト」として学内の食堂において、200円の補助をすることで、学生の経済的な負担を軽減し、2022年12月には累積で約33万人の支援ができました。

2023年度になり大学の授業等がコロナ前の状態に戻ったことから、経済支援から栄養バランスの取れた食事への支援に切り替え、補食として小鉢の提供をしました。その際、学生の意識や実態を把握するために「アンケート」を実施したところ、特に一人暮らしの学生が規則正しく1日3食を取っていないことがわかりました。

2024年度はその結果を踏まえて、生協との協議を経て、秋学期から朝食の支援を通じて、規則正しい充実した学生生活を送ってもらえるよう対応しています。

今後も学生に寄り添った支援を実施していく予定です。



同志社校友会 活動の概要

1 卒業生とつながる

2024年7月現在、国内に48の支部、海外に36の支部が存在し、卒業生に対して校友会本部と連携しながら活動を行っています。「地元へ転職をしたい」「転勤により慣れない土地で生活するのが不安」「海外での勤務は家族も心配している」など、卒業生が抱える課題に対して、現地の校友会支部がサポートをしています。



詳しくは 同志社校友会
ホームページへ



2 大学とつながる

同志社大学と連携した学生へのサポート活動を行っています。同志社大学が掲げる「VISION 2025」の推進を目的としたリーダー育成やグローバル化事業推進などへの支援、その財源となる「同志社大学2025 ALL DOSHISHA募金」の活動支援、同志社フェアなどのイベントを通じた大学のプレゼンス向上のための活動を行っています。



3 学生を支える

「同志社校友会奨学金」「同志社スポーツ奨学金」、海外への留学支援として「グローバル人材育成奨学金」など給付型の奨学金を通じて教育と学生生活の充実がはかれるサポートを行っています。それ以外にも、学生生活のサポートとして食支援なども力を入れています。

同志社校友会本部事務局

TEL : 075-251-4393

E-mail : info00@doshisha-alumni.org

クリスマス・イルミネーション点灯式



2023年度の様子

アドベントを前に各地でクリスマス・イルミネーションが灯り始めるころ、同志社大学でも点灯式を催しています。

京都の冬の風物詩として広く親しまれている今出川校地の点灯式では、西門を入れて北側に広がる彰栄館・同志社礼拝堂・良心館に囲まれたサンクタスコートのヒマラヤスギに

約16,000個のLED電球が灯ります。

京田辺校地では、3代目となる2019年に植えられたヒマラヤスギに約6,500個のLED電球が灯ります。正門を入ってすぐの同志社ローム記念館前にあるため学外からも望むことができ、キャンパスのシンボルとなっています。

今出川校地

11月21日(木) 17:15～(予定)
西門北側サンクタスコート ヒマラヤスギ周辺

京田辺校地

12月2日(月) 16:45～(予定)
同志社ローム記念館前

※都合により、変更になる場合があります。ご了承ください。

第149回 同志社EVE 「駆ける一舞」

同志社EVE は、同志社の創立記念日(11月29日)を祝う記念行事です。今年度も今出川校地にて11月26日・27日・28日の3日間で開催致します。

同志社創立149周年となる今年度は、次年度の創立150周年を見据え、従来の慣習に囚われない新しい同志社EVEの可能性を模索し、創出することを目標としております。

同志社EVEの理念である「学生の自主管理・自主運営」と「団体の活動の発露の場」を実現するため、これまでどおり学生団体であるEVE実行委員会が主体となり運営をしていきますが、学生だけの閉じられた創立記念行事ではなく、大学及び地域も巻き込んだ一大行事を創り上げていきたいと考えております。

ステージ企画をはじめとした学生企画が満載です。当日のご来場を今出川校地でお待ちしております。

第149回 同志社EVE公式HP
<https://doshisha-eve.com/>





「ゼミで学ぶ 魅力を語る」

幅広い領域の専攻から数多くのゼミがある本学。

それぞれ、どんなことを学んでいるのか。

ゼミ教員が、個性豊かなゼミの魅力を語ります。

廃水・廃棄物から社会を学ぶ



理工学部
教授

あかお さとし
赤尾 聡史 ゼミ

Akao Satoshi

私たちは特に農産業に関連する廃水・廃棄物を対象に、その処理や資源化を検討しています。このような材料から資源を得る場合、物質的な中心は、炭素・窒素・リンになります。これらを利用するフィードとしても農産業は都合がいい。そこで、農産業における物質循環、あるいは、サーキュラーエコノミーに関する研究を展開しています。

廃水・廃棄物の資源化は、物質に合わせて自然科学の原理原則に立ち返る必要があります。様々な異分野の基礎的な知見を探り、あてはめ、目的を達成しています。ある特定の廃水・廃棄物の資源化そのものは学生にとって二度と携わることもない活動だと思えます。しかし、目的を達成するために基礎原理に立ち返る、異分野の情報を集める、必要な資料を用意する、スケジュールを管理する、そして、一番難しいことだと考えていますが、社会に合うストーリーを考え、その下で資源化を検討する、この経験は、社会に旅立っても有効であると考え、一緒に実践しています。

私のゼミでは、人と環境の相互作用に注目し実証性を重視する「行動臨床心理学」、心身の健康と疾患の予防や治療を支援する「臨床健康心理学」の立場から、日常場面における効果的な行動マネジメントの方法や、アサーションをはじめとするコミュニケーションと適応の関係について検討しています。このところは、セルフ・コントロールを行動の抑制と促進という2方向で捉える意義や、セルフ・コントロールにおける「利己」と「利他」の役割に関心を寄せています。

学部生対象のゼミでは、興味・関心の近いメンバーが2〜3名のチームを作って卒業研究に取り組んでいます。ゼミ生の視点と発想を手がかりにディスカッションを重ね、基礎研究と臨床・応用実践をつなぐ研究のサポートを心がけています。

卒業研究では、他者からの利他的行動にお返しをする「返報行動」の有無が、相手に対する感謝と負債感にどのように影響していくかを実験的に検討しています。研究計画を練る過程では、抽象的であった研究テーマの枠組みをいかに具体的な実験手続きに落とし込むかに苦戦しましたが、その過程で心理学研究の面白さを実感できたように思います。また、日々の活動の中で、教授やゼミ生との対人関係をメタ的に認知しながら思考できる点も、このゼミの非常に面白いところだと感じています。

ゼミ生の声(4年次 牧戸 綾汰さん)

エビデンスがつなぐ基礎と臨床



心理学部
教授

すぎわか ひろこ
杉若 弘子 ゼミ

Sugiwa Hiroko

Seminars

learning objects of

ホンモノを見る眼が導く学術研究



文学部
教授

こうの みちふさ
河野 道房 ゼミ

Kono Michifusa

私のゼミでは、日本や中国の美術史を扱っており、いわゆる美術品の鑑賞と研究を行っています。個人的嗜好や好みに左右されやすい美術鑑賞を、いかに客観的なデータをもとにした学術研究に構築するかが、最大のテーマとなります。そのために肉筆写本の解読や、作品現物の微細な観察が必要となりますが、無味乾燥なデータの羅列にならないように、いかに作品の意義を説明するかが肝要です。

切ですが、何よりも自分自身の問題意識が重要です。それをどう生み出し具体化していくのか、助産師のようにサポートします。

特に3年次ゼミ初期には、美術品を徹底的に見る実習を行います。具体的には、予備知識無く実際の美術作品を見て、どのようなモノかを推定する。その後、ネットで調べる、友だちと相談する等のプロセスを経て、何をどのように見ればよいのかを実践的に訓練します。4年次ゼミでは、問題提起と結論の論理関係を特に重視します。

芸術作品（ホンモノ）の魅力を説明し、問題点やその改善点をプレゼンする能力は、実社会においても重要な技術です。みなさんの参加を期待しています。

好きなことを、好きなように、好きなだけ考える



法学部
教授

はせがわ かずとし
長谷川 一年 ゼミ

Hasegawa Kazutoshi

私のゼミでは、西洋政治思想史の古典を読み解きつつ、現代の政治的諸問題について思索をめぐらせています。というのは、まあ表向きの話。法学部政治学科でも比較的大所帯の長谷川ゼミには、いろんな関心を持った学生が集まっています。ゼミの方針は、「好きこそものの上手なれ」。何であれ自分が没頭できるテーマを見つけて、徹底的に考え抜くことができれば、それはもう「思想」の営為と呼んでいい（けれど、それがなかなか難しい）。

ゼミ生はグループディスカッションや個人報告を重ねながら、学びの集大成として「ゼミ論」を完成させますが、テーマ設定は「マキアヴェリ」の現代性のような直球勝負もあれば、「オリンピックとレイシズム」「ディズニートのプリンセス像の変容」といった変化球まで、実に多種多様です。以前、K・P・O Pの「ファンダム」をテーマに選んだ

学生がいて、当時は「？」でしたが、いまやファンダムは民主主義の新しいモデルたりうるとも言われています。学生のセンスに脱帽！

ゼミ生の声

「話題の新書や政治学の古典の輪読を通じて、自分だけでは触れることのなかったような様々な考え、つまり思想に触れることができます」（4年次・西堂路 紡）

「先生やTAの方はもちろん、同級生や後輩からたくさんの学びや刺激を得られるゼミです。いつも知的好奇心をくすぐられています！」（4年次・三木 里耶）

「政治思想と聞くと身構えてしまうと思いますが、幅広く政治や現代社会について学んでいます。人も温かく、面白い日々です」（4年次・渡邊 にいな）

- 2024年度 -
卒業式・学位授与式 (学部・大学院)

日時	学部・研究科	場所
3月20日 (木・祝)	10:00 法学部・法学研究科	栄光館 ※1
	12:30 文学部・文学研究科	
	15:00 神学部・神学研究科、政策学部・総合政策科学研究科、司法研究科、ビジネス研究科	
3月21日 (金)	10:00 商学部・商学研究科	京田辺校地 デイヴィス 記念館 ※2
	12:30 経済学部・経済学研究科	
	15:00 社会学部・社会学研究科、グローバル地域文化学部、国際教育インスティテュート、グローバル・スタディーズ研究科	
3月22日 (土)	10:00 文化情報学部・文化情報学研究科、生命医科学部・生命医科学研究科、スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科、心理学部・心理学研究科、グローバル・コミュニケーション学部、脳科学研究科	京田辺校地 デイヴィス 記念館
	14:00 理工学部・理工学研究科	

※1 栄光館での出席は卒業生・修了生のみとし、ご家族等には中継会場(寒梅館ハーディーホール)にて出席いただきます。
※2 入学式会場への来場は、新入生本人のみに限らせていただきます。

- 2025年度 -
入学式 (学部・大学院)

日時	学部・研究科	場所
4月1日 (火)	9:30 文学部・文学研究科、社会学部・社会学研究科、法学部・法学研究科、スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科	京田辺校地 デイヴィス 記念館 ※2
	12:30 経済学部・経済学研究科、政策学部・総合政策科学研究科、生命医科学部・生命医科学研究科、心理学部・心理学研究科、グローバル・コミュニケーション学部、グローバル地域文化学部、脳科学研究科、司法研究科、ビジネス研究科	
	15:30 神学部・神学研究科、商学部・商学研究科、文化情報学部・文化情報学研究科、理工学部・理工学研究科、国際教育インスティテュート、グローバル・スタディーズ研究科	

辺境コミュニティの維持

王柳蘭 他著 ボーダーインク
3,190円

情報セキュリティのしくみ

土屋誠司 著 創元社 2,750円

京都を学ぶ 丹後編

山田徹 他著 ナカニシヤ出版
2,420円

ASEANの連結と亀裂

林田秀樹 編
林田秀樹 寺田貴 大崎祐馬 巖善平
関智宏 他著 晃洋書房 6,380円

民法入門ノート 第2版

野々村和喜 他著
法律文化社 3,520円

関和知の出世

河崎吉紀 著 創元社 2,970円

社会福祉学習双書 2024 第8巻
地域福祉と包括的支援体制

永田祐 野村裕美 他著
全国社会福祉協議会 3,080円

社会福祉学習双書 2024 第9巻
ソーシャルワークの基盤と専門職

空閑浩人 他編著
全国社会福祉協議会 2,420円

社会福祉学習双書 2024 第10巻
ソーシャルワークの理論と方法

空閑浩人 他編
全国社会福祉協議会 2,860円

認知意味論を目指して Ⅲ

菊田千春 他監訳 開拓社 4,620円

まちかどの記憶と
その記録のために vol.3

本岡拓哉 他編著
共在の場を考える研究会

都市・地域

豊田竜蔵 森千香子 他著 岩波書店
3,740円

フランス教育システムの歴史

越水雄二 訳 白水社 1,540円

萬葉集研究 第四十三集

垣見修司 他著 塙書房 13,200円

クビライと南の海域世界

向正樹 著 大阪大学出版会 6,820円

なぜ、無実の人が罪を認め、
犯罪者が罰を免れるのか

川崎友巳 佐藤由梨 他訳
中央公論新社 2,750円

御成敗式目ハンドブック

西村安博 他著
吉川弘文館 2,420円

流暢性と非流暢性

須藤潤 他著 ひつじ書房 9,680円

デジタル・エコシステムを
めぐる法的視座

瀬領真悟 他著 日本評論社 7,150円

国際安全保障がわかる
ブックガイド

浅野亮 倉科一希 村田晃嗣 他著
慶應義塾大学出版会 2,200円

今森光彦 里山

水の匂いのするところ
佐藤守弘 他著 クレヴィス 1,980円

やさしい会社法講義

船津浩司 著 日本評論社 3,520円

次世代創造に挑む宗教青年

井口真 他著 ナカニシヤ出版
2,970円

ジェンダー事典

秋林こずえ 石塚則子 岡野八代
川口章 三山雅子 森千香子 他著
丸善出版 26,400円

真のキリスト教神学の
ための弁証

中野泰治 訳 三恵社 6,050円

ケベックを知るための56章
第2版

神崎舞 他編著 明石書店 2,200円

戦争と鎮魂

佐伯順子 他著 晃洋書房 7,150円

アメリカ史

肥後本芳男 他編著
放送大学教育振興会 4,180円

よくわかるACT 上
改訂第2版

武藤崇 他監訳 武藤崇 他訳
星和書店 3,630円

よくわかるACT 下
改訂第2版

武藤崇 他監訳 武藤崇 他訳
星和書店 3,520円

エッセンシャル金融論 第2版

植田宏文 丸茂俊彦 五百旗頭真吾 著
中央経済社 3,080円

後陽成天皇

大山和哉 他著 宮帯出版社 9,680円

著作権はどこへいく?

山根崇邦 他訳 勁草書房 3,300円

人物で読む心理学事典

武藤崇 他著 朝倉書店 8,800円

本学教員の
執筆図書紹介

(価格は税込み)

障害者権利条約の
初回対日審査

鈴木良 他著 法律文化社
4,180円

現代の金融機関と法 第6版

川口恭弘 著 中央経済社 3,960円

民主司法の救済形式

川崎四郎 著 弘文堂 7,150円

ラテンアメリカと
国際人権レジーム

宇佐見耕一 編
宇佐見耕一 柴田修子 他著
晃洋書房 2,970円

法の理論 42

荻野奈緒 他著 成文堂 4,620円

無作為抽出ウェブ調査の挑戦

尾嶋史章 他著 法律文化社
3,960円

同志社人

訪問



2024年6月にプロ野球・読売巨人軍の社長に就任した国松徹さんは、文学部英文学科の卒業生です。ペタロン経済記者を経て、人気球団のかじ取り役への「転身」。そこにはどんな決意があったのか。選手やファンへの思いから、かつて学生寮だったアーモスト館で過ごした学生時代の経験まで、同志社スポーツアトム編集局の記者・栗林真菜さんが迫りました。

経済記者を経てジャイアンツ社長へ「勝てるチーム」の裏方に徹したい

栗林…読売巨人軍の創設90周年という記念すべき年に社長に就任されました。この役割を引き受けた動機や、その時の思いはどういうものだったのですか。

国松…私はずっと経済部の記者で、その後は経営に携わり、直前は読売新聞西部本社社長でした。サラリーマンの人事というのは「やれ」と言われたらやるしかない(笑)。でも、まさか野球チームの社長になるとは思っていなかったため、本当に驚きました。夢にも思っていない分野でしたから。



Interviewer

スポーツ健康科学部 3年次生

栗林 真菜さん

京都府出身。同志社スポーツアトム編集局硬式野球班の副班長を務める。硬式野球部、馬術部、ソフトボール部男子、弓道部を担当。将来の夢はスポーツ記者としてスポーツの魅力を伝える仕事に関わること。自身は単身で福岡まで試合観戦に出掛けるほど、大のプロ野球好き。

今回の同志社人

読売巨人軍 代表取締役社長

国松 徹さん

大阪府出身。同志社大学文学部卒業。米・シラキュース大学大学院修了。1982年に読売新聞社(東京本社)に入社後、経済部、ブリュッセル支局長、ワシントン支局、大阪本社経済部長、グループ本社社長室次長、東京本社専務取締役制作局長・システム担当を経て2019年6月から西部本社社長に就任。24年6月より現職。

TOKYO GIANTS



栗林…西部本社の社長を経験されて、読売巨人軍の社長にられました。同じ「社長」ですが、どういった違いがありましたか。

国松…やっぱりね、巨人軍なんですよ。世間の注目度が全然違う。巨人軍の社長に就任するために東京に戻ってきたら、反響がすごい。社長に就任すると昔の友人はもちろん、それほど友人ではなかった人からも、たくさん連絡をいただきました。これはやはり、野球の人気はもう高くないだけ、その中でもいちばん古く、90年の伝統がある巨人軍の人気は飛び抜けて高い。そのことを実感しました。

栗林…社長に就任されて、現在、苦労していることはありますか。

国松…チームの成績が最大の関心事なので、毎回、勝つか負けるかが気になります。東京ドームでの試合は必ず現地で見ているんですよ。我々が試合を見る部屋がベンチの並びにあります。勝ったときはベンチに行つて選手たちとハイタッチしますが、負けたらさつさと帰るんですよ（笑）。すごく惜しい、悔しい負け方をして未明まで眠れないこともありましたね。

栗林…もともと巨人ファンだったそうですね。

国松…そうです。でも関西出身なので、疑われるんです（笑）。小中高が大阪の学校でしたので、今でも付き合っている知人は九分九厘、阪神ファンですね。だけど、私の父親が転勤族で巨人を応援していたんです。子ど



もの頃に巨人戦に連れて行つてもらっていたので、私も巨人のファンになりました。

栗林…社長という仕事の中で、大事にしている信条とか、お気持ちはありますか。社長就任の記者会見でおっしゃっていた「勝てるチームを作る」というのがそれでしょうか。

国松…「勝てるチームを作る」と言っても、我々が何か直接できるわけはありません。選手たちがしっかりパフォーマンスを出せるように、スタッフみんなが動いている会社なので、裏方の役割に徹していこうと思っています。

栗林…巨人ファンの人たちにメッセージを送るとしたら、何を伝えたいですか。

国松…本当に感謝、感謝ですよ。東京ドームでは毎回、4万1000〜4万2000人ぐらい来ていただいて、満席です。勝つても負けてもずっと応援してくれるし、勝つたらしもつと応援してくれる。非常にありがたいことです。

栗林…同志社大学の文学部のご出身と聞きました。学部では何を勉強していましたか。

国松…英文学科なんですよ。でも、あんまり勉強してなかったかもしれない。19世紀アメリカ文学などを学んで、同志社の大学院にも行きました。でも、学者の道に進むのはちょっと違うと感じたので、大学院を修了しないで、読売新聞社に就職したんです。



朝から晩まで、休日返上で取材
やりたい仕事だったから頑張れた

栗林…読売新聞社に入社したきっかけは何でしたか。

国松…社会の第一線に触れたいと考えて、それなら新聞記者がいいと思いました。就職活動で他の新聞社も受けましたが、読売新聞社はいちばん元気がありそうでした。割と早く内定をもらえたので、入社を決めました。

栗林…駆け出しの頃にはどんな苦労がありましたか。

国松…新聞記者はなかなかきつい仕事なので、朝から晩まで大変でした。大きな事件が起これば、しばらく休みがないこともあったし、土日も取材していることが多かった。だけど、いろんな人に会えるし、やりたい仕事だったので頑張つてやつてきました。



同じく同志社大学出身である巨人軍の小林誠司選手と、試合前の東京ドームで面会

栗林…経済部での取材を通して、新聞記者の仕事の醍醐味を感じる瞬間はありましたか。

国松…最初、「兜倶楽部（東京証券取引所にある記者クラブ）」の担当になって証券業界を取材しました。取材現場で当時のバブル経済の成長と崩壊を目の当たりにしてきました。企業のトップ、社長や役員から経済の第一線の話を直接聞けるのも新聞記者の醍醐味です。霞が関で旧大蔵省や旧通産省を担当した時はいわゆる高級官僚、実質的に戦後の経済成長を支えてきた人たちとも付き合ったので、面白かったですね。

面白そうなことなら何でもやった アーモスト館での学生寮生活

栗林…学生時代の思い出をお聞かせください。今日のご自身を形成するうえで、特に影響を与えた出来事がありましたか。

国松…いちばんの思い出は寮生活でした。今出川キャンパスに「アーモスト館」というニューイングランドスタイルのレンガ造りの建物があります。あの建物は、昔は学生寮だった。2年生から3年間、私を含めた18人の寮生と、アメリカのアーモスト大学から毎年来るフェローと一緒に暮らしました。

栗林…アーモスト大学には、行ったことがあります。

国松…アーモスト寮は伝統ある寮でいろんな行事があつて、年に1回の「寮祭」のほか、毎週土曜早朝のソフトボールや英語以外は使えない「イングリッシュデー」もありました。アメリカのサマーキャンプで3か月ぐらい子どもたちのお世話をするボランティアにも進んで参加しました。5月末には渡米する必要があつて、前期の必修科目の試験が受けられず留年したんです。でも、そんな経験があつてもいいと思つて、どんどん手を挙げました。

げました。

栗林…興味のあることには積極的に参加していたんですね。

国松…京都国立博物館の学芸員から「通訳」を頼まれて、2か月間ヨーロッパとアメリカの美術館・博物館の視察旅行についていったこともありました。そんな機会が得られる寮でした。これらの体験は、私の人生に大いに役立っていますね。

栗林…現在の学生たちに向けて、在学中にどのような経験をするのが大事だと思いますか。

国松…面白そうな話があれば何でもやつてみればいい。アルバイトでもいいし、サークル活動でもいい。勉強を一生懸命やつてもいいし、起業してもいい。そんなことをガンガンやってみたらいいと思います。同志社の学生は、ちょっとおとなしめでしょう。スマホばかり見ているんじゃないかと、そういうことにチャレンジしたらいいい。学生のうちならできる。京都の人は学生に優しいから、少々悪さしても許してくれるでしょう（笑）。

取材を終えて

Interviewer

栗林 真菜さん



シーズン真つただ中に国松社長のお話を聞けたことは、とても貴重な体験になりました。記者時代のお仕事内容、さらに球団社長としてのお仕事の内容など、二つ二つのエピソードが私にとって新鮮で驚きの連続でした。特にアーモスト寮生時代のお話が印象的で、留学生と交流したり学生が自主的に様々なイベントを行ったりしたことが、今の国松社長を形成する重要な経験であったのを感じました。私も4年間という短い大学生活で、一生の思い出に残る特別な経験を積んでいきたいと思っています。

挑戦する人 My Purpose

いなり
稲田 莉子さん
神学部 神学科
4年次生

高校2年生だった2019年に脳腫瘍が発覚し、9カ月の闘病生活を送る。入院中に「一般社団法人みんなのレモネードの会」を知り入会。活動を知った友人と共に「レモネードスタンド Philia」を設立した。現在は他大学の学生も含めた24名で活動している。

インタビュー動画もチェック



小児がんを
知る第一歩を、
レモネード
スタンドから

15歳未満の子どもの中で、日本で年間約2,500人が罹患するとされる「小児がん」。大人のがんに比べると患児の数は多くないため、その実態はあまり知られていない。そんな中、稲田莉子さんが代表を務

める学生ボランティア団体「レモネードスタンド Philia（フィリア）」は小児がん支援の活動を続けている。高校2年生の頃に脳腫瘍が発覚し、一時は寝たきりに近い状態だったという稲田さんは、9カ月に及ぶ

入院期間を経て大学に進学。入院中に合った1冊の絵本をきっかけに小児がん支援の団体を知り、自身も活動に参加するようになった。「お世話になっている病院にプレゼントを届けたり、啓発イベントを開催したりと、患児やご家族との交流を深めながら、小児がんを知ってもらうための活動をしていました」

稲田さんの活動を知った神学部

たちの活動から小児がんへの理解を深めて、晚期合併症に悩む子どもたちが生きやすい社会にしたい。そのために、地道な啓発活動を続けていきたいと思っています」

高校生の頃まで医療従事者を志していた稲田さんだが、小児がんを経験し、大学で実践神学を学ぶ中で、目標が変わったと言う。「医師や社会福祉士の方はたくさんいらっしゃる一方で、患児たちの心に寄り添うスピリチュアルケアは重視されてきませんでした。だからこそ、当事者としての経験と大学での学びを活かして、より良い治療の在り方を模索したいと思っています。まずは大学院に進学して、キリスト教とスピリチュアルケアに関する研究を深める予定です」。小児がんの子どもたちが生きやすい社会に向けて、稲田さんは新たな挑戦を続けている。

小児がんの子どもたちが
生きやすい社会に



「小児がんには、晚期合併症といわれる『後遺症』のようなものがある。退院後も継続的な支援が必要なんです。極端に疲れやすかったり、集中力が続かなかったりすることに対しては『やる気がない』と誤解されることもあります。私



↑ 昨年7月、京都市内のバザールに出店した時の様子。メンバーの知識を深め、団体としての活動方針を決定するため、定期的に勉強会も開いている。